

| | | | | | | |
|--------|-----|----------------|-----|-----------|-------|-------|
| 施策 No. | 政策名 | 安全安心な暮らしのまちづくり | 主管課 | 生活環境課 | 主管課長名 | 仁平 博章 |
| 3-3 | 施策名 | 交通安全対策の推進 | 関係課 | 建設課、学校教育課 | | |

1. 施策の目的と成果把握

| 目的 | 施策の対象 | 対象指標名 | 単位 | 区分 | 29年度 | 30年度 | 元年度 | 2年度 | 3年度 | |
|-------------------|------------------------------|---|--------------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 交通安全を起こさず、交通事故にあわない環境が整っている。 | ・市民、市内の道路利用者(車両運転者・歩行者) ・市内道路 | ①桜川市人口 | 人 | 見込値 | 41,278 | 41,008 | 40,738 | 40,467 | 40,197 |
| 実績値 | | | | | 41,278 | 40,483 | | | | |
| ②市内道路延長(国道、県道、市道) | | | km | 見込値 | 1,638 | 1,639 | 1,640 | 1,641 | 1,642 | |
| | | | | 実績値 | 1,623 | 1,623 | | | | |
| | | | | | 見込値 | | | | | |
| | | | | | 実績値 | | | | | |
| 施策の意図 | | 成果指標名 | 単位 | 区分 | 29年度 | 30年度 | 元年度 | 2年度 | 3年度 | |
| | | ①市内の交通事故発生件数(人身) | 件 | 目標値 | 120 | 120 | 120 | 120 | 120 | |
| | | | | 実績値 | 98 | 78 | | | | |
| | | | ②市内の交通事故死亡者数 | 人 | 目標値 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | | 実績値 | 1 | 0 | | | |
| | | | ③市内の交通事故負傷者数 | 人 | 目標値 | 145 | 145 | 145 | 145 | 145 |
| | 実績値 | | | | 137 | 110 | | | | |
| | | | | 目標値 | | | | | | |
| | | | | 実績値 | | | | | | |
| | | | | 目標値 | | | | | | |
| | | | | 実績値 | | | | | | |
| | 成果指標設定の考え方 | ○交通事故に遭わず、また起こさなければ、①交通事故発生件数、②③交通事故による死傷者数は減少すると考えた。 | | | | | | | | |
| | 成果指標の把握方法と算定式等 | ○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①市内の交通事故発生件数(人身)、②市内の交通事故死亡者数、③市内の交通事故負傷者数は、桜川警察署資料(1月～12月)より求める。 | | | | | | | | |

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

| | | | |
|-------|--|---|--|
| 実績比較 | <input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した | <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した | <input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態) |
| | <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した | <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した | |
| 背景・要因 | <ul style="list-style-type: none"> ・市内の交通事故(人身事故)発生件数は29年98件から30年78件と20件減少した。 ・交通事故死亡者数についても、29年は1人であったが、30年は0人と死亡事故はなかった。 ・交通事故負傷者は、29年は137人であったが、30年は110人と27人の減少した。 ・市内の交通事故発生件数等の減少については、日頃から啓発活動や立哨、反射材付タスキの無料配布等を強化して行ったことも一因と考えられる。 ・上記のようなことから、成果水準として、「成果がどちらかといえば向上した」と評価した。 | | |

2) 成果目標の達成状況

| | | | |
|-------|--|---|--|
| 実績比較 | <input checked="" type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った | <input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った | <input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった |
| | <input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った | <input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った | |
| 背景・要因 | <ul style="list-style-type: none"> ・市内の交通事故(人身事故)発生件数は、30年度目標値の120件に対し、78件に抑えることができた。 ・市内の交通事故死亡者数は、30年度目標値0に対して0人と死亡事故はなかった。 ・市内の交通事故負傷者数は、30年の目標値145人に対し、110人に抑えることができた。 ・高齢者に対しては、薄暮時の事故も多くみられたことから、高齢者に対しての交通安全教室開催時に注意喚起してきたことも、事故の件数が減った要因の一因となったと思われる。 ・上記のようなことから、成果目標の達成状況として、「目標値のすべてを上回った」と評価した。 | | |

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

| 施策の成果実績に対しての総括 | 今後の課題・方針 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度は、「交通安全指導事業」、「交通安全施設整備事業」、「市交通対策協議会運営事業」を中心に事業を実施した。 ・交通安全指導事業においては、幼児交通安全教室、小中学校及び義務教育学校にて交通安全教室を実施し、学年に応じた歩行の仕方及び自転車の正しい乗り方等を実施したことにより、交通安全の意識向上に繋がった。 ・交通安全施設整備事業においては、交通安全の確保の観点から、区画線、カーブミラー、ポストコーン等の設置を行った。 ・市交通対策協議会運営事業においては、警察や交通関係団体と連携を図り、啓発活動やキャンペーンを実施したことで、昨年より事故件数を減らすことができ、市民の交通安全に対する意識向上に繋がった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・29年に亡くなられた方が、歩行中の高齢者だったので、引き続き自動車を運転する際には注意するように促すとともに、歩行中についても高齢者に対する交通安全を推進し啓発活動を実施する。 ・市としては交通安全教室や高齢者輪投げ大会等を開催し、交通安全の意識が向上されるように継続的に実施していく。また、警察署では取り締まりの強化、交通安全関係団体には交通安全のキャンペーンや立哨活動による交通安全への意識が向上するように啓発活動を実施する。 ・今後は高齢化社会が進んでいくので、免許の自主返納の推進等で高齢者の事故をいかに減少できるかが課題となる。 |